

ハクビシンの研究

浜松市立篠原小学校

5年 内山 颯梧

1 動機

2019年6月3日7時、学校の通学路の道路でハクビシンの死がいを見つけた。ハクビシンは本でひ害があることは知っていたけれど、本物のハクビシンは見たことがなかったので、どのような生き物なのか知りたいと思った。そこで、地域のハクビシンがどのような生活をしているか調べ、このハクビシンがどうしてここで死んでしまったか、どのような物を食べていたか調べ、ハクビシンとの今後の付き合い方を考えることにした。

2 仮説

- (1) ハクビシンは単独で行動し、なわばりを持っている
- (2) このハクビシンは交通事故で死んだ
- (3) このハクビシンは死ぬ前は果物を食べていた

3 研究内容

- (1) ハクビシンの行動調査
 - ア ハクビシンが死んでいた周辺の家に聞き取り調査
 - イ 地域農家に農作物へのひ害の聞き取り調査
 - ウ 動物園の飼育員さんに飼育しているハクビシンについての聞き取り調査
- (2) 農作物へのひ害があった畑などでセンサーカメラでの調査
- (3) ハクビシンの死がいを解剖する
- (4) 聞き取り調査中に見つけたミイラ化した動物の死がいを調べる

4 結果

- (1) ア 39件中9件の目撃情報があった。ハクビシンの死がいを道路のすみにどかした人を発見した。
 - イ ビワ、スイカ、メロン、ミカン、トウモロコシ、トマト、ブドウ、ウリ、ラッカセイなどのひ害があった。
 - ウ 飼育しているハクビシンは人なつこく、エサはやわらかくて甘いものが好きだと分かった。ウズラやアジなどの肉も食べるが、ニンジンあまり好きではない。となりのタヌキとは仲が悪い。
- (2) センサーカメラには、ネコとタヌキは写っていたが、ハクビシンは写っていなかった。



- (3) 骨の状態や歯のすり減り方、体長などから、死んだハクビシンは大人の若いオスで、右前方から車がぶつかったことによる交通事故で死んだと考えられる。胃と腸の内容物から、死ぬ前にビワの実を食べていたことが分かった。



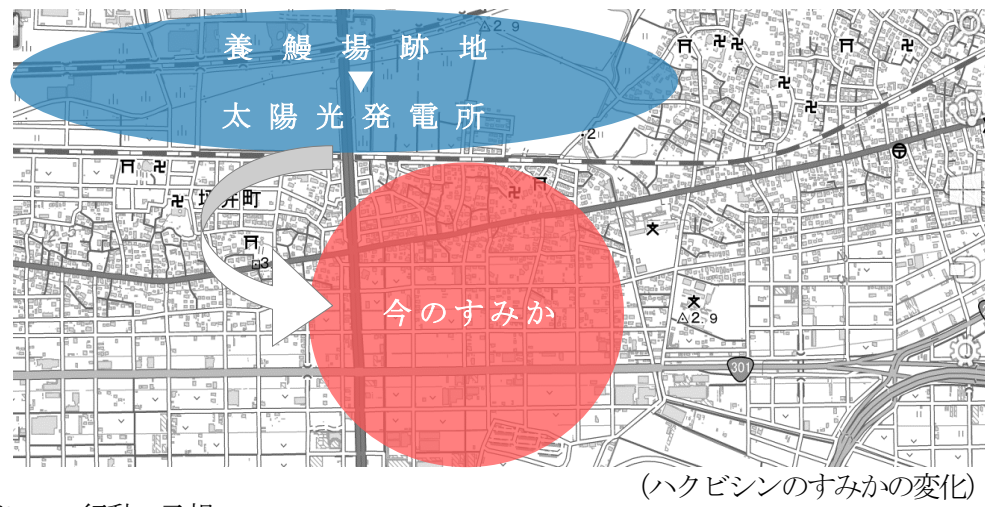
(4) 骨の比較やしっぽの周りの毛が黒いことなどからハクビシンの子どもの可能性が高いことが分かった。



5 考察

(1) すみかの変化

行動調査から昔、養鰻場だった場所が太陽光発電所になったことで、ハクビシンのすみかが民家周辺へと移動したと考えられる。



(2) ハクビシンの行動の予想

行動調査や解剖から、ぼくが予想した当日のハクビシンの行動

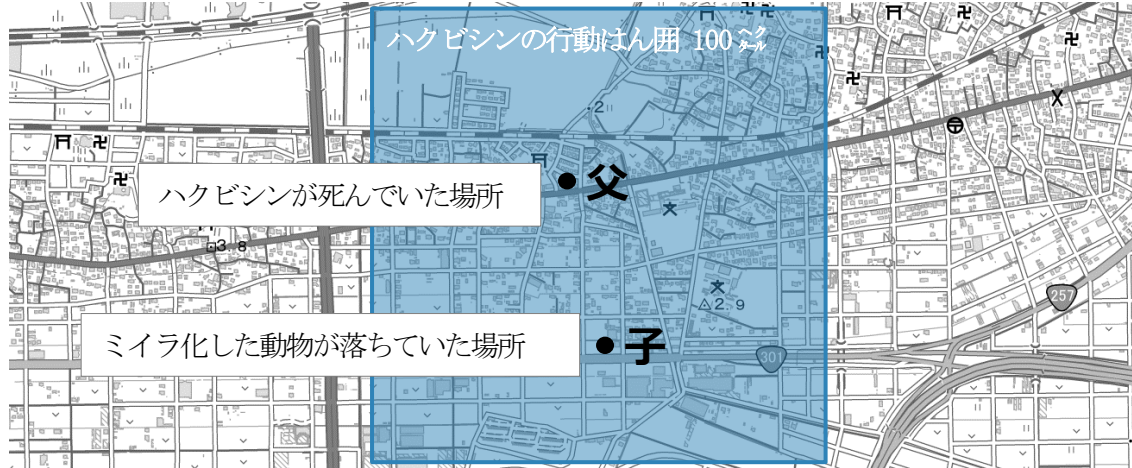
日付	時間	予 想	事 実	根 きよ
6/2	19 時	ねぐらを出る		夜行性 聞き取り
	20 時	ビワを見つける		
6/3	4 時	ビワをおなかいっぱい食べて帰り始める		解剖
	5 時	満ぶくで動きがにぶいところを車にはねられて死んでしまう		
	6 時		近所の人が死がいすすみにどける	聞き取り
	7 時		ぼくが登校中に見つける	目撃
	15 時		ぼくが死がい拾う	

(3) ハクビシンの死んだ原因

解剖して骨の状態を観察すると、右前の眼骨が折れていて左側のほほの骨がこなごなになっていることから、顔の右前側から車にぶつかったと考えられる。ハクビシンが車の方を向きながら、頭から車にぶつかって死んだことが分かった。

(4) ミイラ化した動物との関係

ハクビシンの行動はん囲はオスで50～100ヘクタールということから、解剖したハクビシンとミイラ化した動物が死んでいた場所と行動はん囲が重なる。だから、親子の可能性が高いと考えられる。



(ハクビシンの行動はん囲図)

6 結論

(1) 地域のハクビシンがどのような生活をしているか

近い距離で2ひきのハクビシンが死んでいたので、ハクビシンは単独ではなく、親子でくらしていたと思われる。ハクビシンが死んだ後に、ハクビシンがいたと教えてもらった場所にセンサーカメラをしかけたが写っていなかった。つまり、この辺りをなわばりにしていたハクビシンが死んだのだと考えられる。だから、ハクビシンはなわばりを持って生活していると考えられる。

(2) このハクビシンがどうして、ここで死んでしまったか

行動調査から交通事故で死んだことが分かった。また、解剖から頭骨以外の骨がつぶれていないこと、右前側の眼骨が折れていて、左側のほほの骨がこなごなになっていることから、顔の右前側から車にぶつかった。ハクビシンが車の方を向きながら、頭から車にぶつかって死んだことが分かった。

(3) このハクビシンがどのような物を食べていたか

行動調査からビワを食べていたということが分かった。また、解ぼうからも胃、腸からビワの種がたくさん出てきたことで、ビワを食べていたことが分かった。

7 感想

この研究を通していろいろな農家さんや飼育員さんの話を聞いたり、実際に解剖でハクビシンの体をさわることで、ぼくの考えは変わっていった。ぼくのハクビシンの初めのイメージは、外来生物で害獣だからこまった生き物だと思っていた。でも、解剖をしてみるとハクビシンの体は、心臓や胃、腸などもぼくと同じようにあって、すがた形はちがうけどぼくと同じ生き物で、ハクビシンも一つの命だということが分かった。聞き取り調査やミイラ化した動物がハクビシンの子どもの可能性が高いことが分かってから、生きていくために親子がきけんをおかして食事をしたりしてハクビシンが一生けん命生きていることが分かって、すごく親近感がわいた。しかし、農家さんにとっては農作物へのひ害などでこまってしまうことがあるので、人間とハクビシンが上手に共存しながら、いっしょにくらしていけたらいいと思う。

今回の研究ではハクビシンのすみかや、死んでいたハクビシンと聞き取り調査中に見つけたミイラ化した動物との関係について、実際には観察できていないのが課題だ。人間とハクビシンが共存できるように、引き続き研究を続けていきたい。